

# 防虫剤を入れて収納していた衣類は 干してから着用しましょう

衣類用防虫剤・トイレ用防臭剤  
家庭内の化学物質・パラジクロロベンゼン

衣類用防虫剤は多くの家庭で使われています。防虫剤の成分の1つであるパラジクロロベンゼンは人への健康影響が懸念されている化学物質で、厚生労働省によって室内空気濃度に関する指針値がとりまとめられています。

そこで、パラジクロロベンゼン製の商品を使用することで、パラジクロロベンゼンにどの程度さらされることになるのかについてテストを行ったので、情報を提供いたします。

\* 指針値について：現状において入手可能な科学的知見に基づき、人がその化学物質の示された濃度以下の曝露を一生涯受けたとしても、健康への有害な影響を受けないであろうとの判断により設定された値。パラジクロロベンゼンの指針値は  $240 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 。

## 主な調査結果

- (1) アンケート結果によると、衣類用防虫剤は約80%が使用しており、そのうち約40%がパラジクロロベンゼン製を使用していた。トイレ用防臭剤は約25%が使用しており、そのうち約20%がパラジクロロベンゼン製を使用していた。
- (2) 衣類用防虫剤・トイレ用防臭剤をモデルケースにおいて使用した場合の室内のパラジクロロベンゼン濃度は、最も高い場合、衣類用防虫剤で指針値の約4.6倍<sup>(\*)</sup>、トイレ用防臭剤で約17.0倍<sup>(\*\*)</sup>と、いずれの場合も指針値に比べて高くなった。しかし、実際の生活での室内濃度は、さまざまな条件（使用方法、換気の有無など）によって変動すると考えられる。  
(\*) 整理タンスで使用し、換気をしない場合  
(\*\*) 包装材を全て取り除いて使用し、換気をしない場合
- (3) 繊維素材へのパラジクロロベンゼンの吸着量（単位面積当たり）は、ナイロン、ポリエステル、毛、綿の順で多く、絹・レーヨンへの吸着はなかった。
- (4) 防虫剤を入れて1週間収納しておいた衣類を着用した場合のパラジクロロベンゼン曝露は、1日目が高く、指針値を越えることもあった。しかし、2日目になると急激に下がり、3日目にはほぼ0まで下がる傾向があった。また、ナイロン・ポリエステル・毛を多く含む衣類からの曝露は大きく、綿・絹・レーヨンを多く含む衣類からの曝露濃度は小さい傾向がみられた。

## 消費者へのアドバイス

- (1) パラジクロロベンゼン製の衣類用防虫剤は、使用方法などの条件によっては、室内濃度が指針値より高くなるおそれがあります。使用している部屋では、できるだけ換気を行って室内濃度を下げようように心がけましょう。
- (2) トイレ用防臭剤の使い方によっては、トイレ内のパラジクロロベンゼン濃度は非常に高くなります。使う時には、換気を心がけましょう。
- (3) 防虫剤を入れて収納していた衣類を着用する時には、あらかじめ衣類ケース等から取り出し、風通しのよいところで1日以上干しておいてから着用するようにしましょう。

なお、健康局では

パンフレット「住まいの健康配慮ガイドライン」や健康局ホームページで関係情報を提供しています。

URL <http://www.kenkou.metro.tokyo.jp>

<b>【問い合わせ先】</b>
-----------------

東京都消費生活総合センター技術支援課
--------------------

電話 03(3433)8563～8567
----------------------

H 1 4 . 7 . 5